令和7年度　飯塚市事務事業評価シート

令和　8　年　6　月　10　日　作成

事務事業名	学校保健会関連事務	事務事業No.	512 - 2

1．基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
教育部	学校教育課	指導係	指導主事	児玉　正昌	課長	岡松　賢吾

施策体系				
総合計画	政　策	5	教育・文化
	施　策	1	人権を尊重する豊かな心・健やかな体を育む教育の推進
	基本事業	2	体力向上と健康増進の推進
その他の計画	個別計画		－

根拠法令・要綱等	飯塚市学校保健会補助金交付要綱、飯塚市学校保健会規約				
事業開始年度	平成17年度	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業
実施手法	全部直営	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	－

2．事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要		飯塚市学校保健会に補助金を交付し、学校教育における保健管理及びこれに関する調査研究並びに普及発展を図り、学校保健施策に寄与することを目的とした学校保健会活動を補助する。
対象	働きかける相手・もの	飯塚市学校保健会
手段	方法・働きかけ（活動指標）	補助金の交付、研修会の実施
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	飯塚市学校保健会の活動を通して、学校教育における保健安全管理の充実及び教職員の資質の向上させる。

3．活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
飯塚市学校保健会による研修回数	回	８月、２月に各１回実施	2	2	2
上記研修会へ参加した教員の数	人		102	83	85

4．成果指標（決算成果説明書と連動）

					前年度実績	本年度実績	次年度見込
指標	教員の研修参加率	単位	達成目標値				
		%	100	目標値	100	100	100
説明	参加した述べ教員数/対象者×研修会数	方向性	達成目標年度	実　績	113	91	
		維持	毎年度				
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
				目標値			
説明		方向性	達成目標年度	実　績			
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
				目標値			
説明		方向性	達成目標年度	実　績			

5．事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	－
予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 10 教育費	項 1 教育総務費	目 2 事務局費
	大 99 その他事務局費	中 14 学校保健会費	他 － 事業	

		(R2以降)	前年度実績（千円）			本年度実績（千円）			増減理由（10%以上の場合）	次年度予算（千円）		
投入人員（当該事務事業に対して１年間に投入した人員）		正職員	0.15	人	1,222	0.15	人	1,274		0.15	人	1,274
		任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
		任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
		任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
		再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
		再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度	1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度	2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）			1,222			1,274			－	1,274		
事業費	直接事業費（B）		150			100				150		
	総事業費（A＋B）		1,372			1,374				1,424		
直接事業費のうちの主な歳出内訳	負担金補助及び交付金		150			100				150		
	－		0			0				0		
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）		0			0				0		
	国・県支出金		0			0				0		
	市債		0			0				0		
	一般財源		1,372			1,374				1,424		
	その他（　　）											

6．事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	やや高い	学校保健にかかわる研修の充実のため、飯塚市学校保健会にて養護教諭や保健主事に関わる研究テーマを設定し、研修を実施している。
効率性評価	高い	これ以上の利便性は考えられず、関連事業はない。
有効性評価	高い	保健主事・養護教諭の研修は機会が少ない。このような会のおかげで、充実した研修の機会が保たれている。

7．前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	なし
一次評価	現状維持		
	コストの方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	なし
	現状維持		

前年度改善策に対する実績　★　　※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

なし

8．今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】　第１回研修会では、ＡＥＤの取り扱い及び心肺蘇生法についての知識及び技能を深めることができた。第２回研修会では、学校等における実践的な性教育の理解を深めることができた。

【課題】　近年の温暖化を受けて、熱中症に関する知識・技能を高められるような機会を設定する。

9.今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	【理由】
現状維持	学校現場の要望に応じた、学校保健の充実につながる研修が実施できているため。
コスト投入の方向性	【理由】
現状維持	養護教諭等の業務については、専門的及び最新の情報に基づいた知識が必要であり、講師招聘が必要となるため。

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	なし
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	なし

2次評価（最終評価）	**成果の方向性**	
	拡充	養護教諭等の専門性向上に資する事業であり、児童生徒の健康・安全を支える基盤としても重要な事業と考える。研修ニーズは高まっており、対面研修の質を保ちつつオンラインを併用することで、研修機会の充実と参加しやすさの両立が図れるものと思料する。現段階の事業の方向性としては、研修内容・機会の充実を図る拡充とする。なお、充実にあたっては、現場のニーズ把握と研修テーマの整理を早期に進めておく必要がある。
	コスト投入の方向性	
	縮小	オンライン併用により、職員の負担軽減や会場費等の経費抑制が期待できることから、成果の充実と支出の効率化は両立し得るものと思料する。また、交付決定時に不要額が生じる場合は補正等により対応するとともに、交付者と補助対象者が同一である体制については、ガバナンスの観点から事務局のあり方を検証していく必要があると考える。なお、現段階のコスト投入の方向性としては、経費の効率化を図りつつ縮小とする。